

カンボジアの風景：2題

3月中旬、家で食事をしていたら夕日がきれいだったので、思わずベランダから撮った1枚です。今は雨季でこのような夕日は見られませんが、11月から4月の乾季には数分間の日没ショーを楽しめます。この写真、良く見ると建設中のビルが2つ映っています。その手前には茅葺屋根風の家、右に電波塔があり、プノンペンの今を象徴しています。



建設中のビルに沈む夕日(プノンペン)

次の写真はプノンペンから140Km南のケップという海浜の町です。木陰に座り、水遊びをする子供たちを眺めていたら、沖を左右に行ったり来たりする小舟に気がつきました。長いさおの先に付いた網で何かを取っています。昼ごろなので魚ではなさそうです。



ケップの海岸で見つけた小型漁船。

海岸の人々の様子。→



小学校の子供たち

あるNGOの手伝いで7月初めにカンポット州の小学校へ行きました。お寺の敷地内にある学校で、平屋の校舎が3棟並んでいます。休み時間になると子供たちが教室から飛び出して来ました。校庭と言っても木が疎らに生える空き地です。子供たちの遊びは大縄跳び、鬼ごっこ、ゴム縄飛びと、どれも私が子供の頃、見慣れた光景で懐かしく感じました。子供たちはサンダルを履いていますが走り回るときは裸足です。



村の小学校。手前に見えるのは国旗を掲揚するポール



オートバイや自転車でお菓子を売りに来た業者が奥に見える。



逆立ちし、足でゴムを引っ掛けて飛び越えるゴム縄跳び。昔懐かしい遊びです。

カンボジアの技術教育の現状

1990年代は戦後復興の時期で短期職業訓練を細々とやっていたようだが、2000年以降は年率10%を超える経済発展とともに短大、大学コースへと拡大発展した。技術系大学コースは私の学校を含めて数校しかないで、まだ少数派ですが技術者をを目指す学生が年々増えています。これは、経済の発展に伴い道路やビル建設、電力や通信のインフラ整備が進み、それらの建設・運用に携わる技術者が不足し、就職が容易なためです。

技術教育の中身は理論が多いが、実技では市販のテレビやCDプレイヤーを分解し、仕組みを調べるという実践的な実習をやっています。大学1年生はまずハンダ付けの練習から始め、テスターの使い方をしっかり勉強します。私にとっては懐かしい技術ですが、今の日本ではあまり教えていないのではないかと。その理由は、日本では電子産業が高度化・精密化し、組み立てはコンピュータ制御のロボットで行うのに対し、カンボジアには電子産業が無く、中小零細業者が中古品の修理や改造を生業としていて、それに必要な技術だからです。

電気・電子の本格的な製造業はまだありませんが、エレクトロニクスの基礎技術の素養があるということは、将来のカンボジアの産業発展にとって有利な条件の1つになると思います。

技術より人間関係

NHKの国際放送で、アフリカのスラムで子供たちに医療支援をやっている日本の青年の話がありました。「相手を援助の対象として見ていたが、ある時相手から貰うものがあることに気づいた」と話していました。技術の支援もそれだけが目的ではなく、アルバイトをしながら苦学している学生にこちらが勇気づけられ、一緒に仲間に入れて貰い気持ちが若返ったりと、双方の交流を心掛けたいものです。



数学の授業。三角関数の微分方程式。私はすっかり忘れてました。



市販のテレビを使った実習。実務経験がないと指導できない。



電子部品とテスターの使い方。大学1年生で基本をしっかり身につける。



電子科の大学5年生と同僚のシニアボランティア(2名)。手前左が筆者